

国語科学習指導案

1 日時 令和3年〇月〇日（〇） 午後〇時〇〇分～午後〇時〇〇分

2 場所 第1学年〇組 教室

3 学年・組 第1学年〇組 〇〇名

4 単元名 様子を思い浮かべて、ことばあそびうたをつくろう
使用図書：「あたらしいこくご」一上 東京書籍

5 単元目標

- ・身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。 「知識及び技能」（1）オ
- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 「知識及び技能」（1）ク
- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 「思考力、判断力、表現力等」B書くこと（1）ア
- ・文章に対する感想を伝え合うことができる。 「思考力、判断力、表現力等」B書くこと（1）オ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。 (1) オ	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 B (1) ア	進んで身の回りから音や様子を表す言葉を集め、粘り強く「ことばあそびうた」を作ろうとしている。
②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1) ク	②「書くこと」において、文章に対する感想を伝え合っている。 B (1) オ	

7 教材観

本校の児童は語彙力に課題があり、低学年から語彙力を培うことが重要であると考えます。そのため、本単元では擬声語・擬態語を取り扱い、言葉の楽しさを味わわせたい。言語活動は、「ことばあそびうた」を作り、友だちと読み合うことと設定した。まず教科書で示されている擬声語・擬態語をとりいれた「ことばあそびうた」を音読することによって、その仕組みを理解し、それぞれの言葉の持っているリズムや響きを感じ楽しむことができる。次に、同じ仕組みを持った「ことばあそびうた」を作る活動をとおして、これまでに獲得してきた言葉から想像を広げ、擬声語や擬態語などの言葉の意味を理解して必要な事柄を集めたり確かめたりしながら書いていく。さらに、友だちの作った「ことばあそびうた」を鑑賞することで新しい言葉を知り、語彙の幅を広げ言葉に興味を持つことができる。この時期の児童は、自分の感じたことを周囲の人に向けて、素直に表現することが好きな傾向がある。これらの活動を通して言葉のおもしろさを実感させ、学習したことをもとに日常生活の中でも言葉に興味をもつことができるようにすることで、言語感覚を磨いていきたい。

8 児童観

省略

9 指導観

第一次では、擬声語のクイズをしたり、どんな擬態語があるかシークレットボックスをしたりして意欲を高め、教材「ことばあそびうた」を紹介する。そして、この単元の最後に学習のまとめとして好きな食べ物で自分だけの「ことばあそびうた」を作り、ICT 端末で動画撮影しクラス全体で共有するという単元の活動の見通しをもたせたい。

第二次では、教材で学んだことを自分の「ことばあそびうた」に活用していくことができるように、授業を進めていく。「たべもの」のうたが、(擬声語・擬態語＋名詞)、(上の擬声語・擬態語は下の名詞を連想させるものであること)をおさえ、どの児童も自信をもって意欲的に学習できるようにしたい。また、擬声語・擬態語については、第1次で実施したクイズやシークレットボックスで出てきた言葉や、教材に出てくる言葉、他のいろいろな食べ物だとどんな擬声語・擬態語があるか考える中で出てきた言葉を集め、「ことばあつめ」として教室に掲示することで視覚的にも語彙が増えていくことを確認できるようにする。そしてそれらの活動の中で、同じ食べ物でもいろいろな擬声語・擬態語が考えられるおもしろさにも気づかせたい。

第三次では、自分の好きな食べ物について、「ことばあそびうた」を作る。そして、各自で作った「ことばあそびうた」を ICT 端末で動画撮影してクラス全体で共有し、その動画を視聴して感想を伝え合う。「ことばあそびうた」は短い文でリズムがあり、擬音語・擬態語という普段、児童が日常で使っている言葉を書いていくので、比較的書きやすいと思われる。児童がそれぞれの想像したことなどから「ことばあそびうた」を作っていけるようにしていきたい。また、ICT 端末を活用することで、たべもののおいしさがどのように音読すれば友だちに伝わるか、試行錯誤させて音読させたい。

10 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
1	1	・擬声語、擬態語について知り、興味をもつ。 ・「たべもの」の「ことばあそびうた」を読み、自分の好きな食べ物で、「ことばあそびうた」を作り、発表するという学習の見通しをもつ。 ・「ことばあそびうた」の響きやリズムを感じ楽しむ。	知識・技能②（行動観察）【指導に生かす評価】
2	2	・「ことばあそびうた」の仕組みを理解し、「たべもの」の「ことばあそびうた」に別の擬声語・擬態語を入れたらどうなるか考える。	思考・判断・表現①（行動観察）【指導に生かす評価】
	3 (本時)	・「たべもの」の型をまねて、擬声語、擬態語と食べ物の名前を組み合わせ、おいしそうな表現を考える。	思考・判断・表現①（行動観察・ワークシート）【記録に残す評価】
3	4	・「たべもの」の「ことばあそびうた」で学習したことを活用して自分の好きなたべものの「ことばあそびうた」を作り、ICT 端末で動画撮影する。	知識・技能①（行動観察・ワークシート）【記録に残す評価】 主体的に学習に取り組む態度（行動観察・動画・ワークシート）【記録に残す評価】
	5	・友だちが作った「ことばあそびうた」の動画を視聴し、感想を伝え合う。	知識・技能②（行動観察・動画）【記録に残す評価】 思考・判断・表現②（行動観察・振り返り）【記録に残す評価】

11 本時の展開

（1）本時の目標

経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

(2) 本時の評価規準

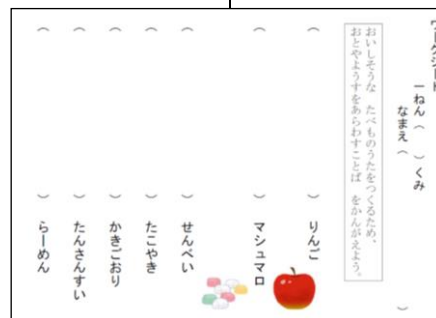
「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 思・判・表①

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する子ども(C)への支援
経験したことや想像したことから、その食べ物のおいしさを表現している適切な擬声語・擬態語を考えている。	擬態語、擬声語について、例をいくつか紹介しながら、授業者と一緒に考える。

(4) 本時の学習過程

学習内容・学習活動 予想される児童の反応	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
○「たべもの」の「ことばあそびうた」を音読する。 ○前時までの学習を思い出す。 ○学習のめあてを知る。	・擬声語や擬態語に着目させ、一人ひとりのイメージを大切にしながら、音読できるように声かけをする。	
おいしそうな たべものうたをつくるため、おとやようすをあらわすことばをかながえよう。		
○「りんご」にあう擬声語について考え、発表する。 わたしは「しゃりしゃり」かな。 「しゃくしゃく」ってかんじがする。	・擬声語と擬態語について、厳密に区別することよりも、自分の考えた言葉を大切にすよう声かけする。 ・ICT 端末に送付した「りんご」や「マシュマロ」の写真を見て、イメージをふくらまさせる。	
○「マシュマロ」にあう擬態語について考え、発表する。 「ふわふわ」がいいよ。 「もこもこ」なイメージだよ。	それでは、「せんべい」「たこやき」「かき氷」「炭酸水」「ラーメン」では、どんなおいしそうな言葉を考えられますか。	
○いくつかの食べ物を提示し、ふさわしい擬声語、擬態語をワークシートに書きこむ。 ○自分が考えた擬声語、擬態語を ICT 端末に入力し、共有する。	・食べ物にふさわしい擬声語、擬態語を考えつかずに困っている児童には、個別に声かけし、擬態語、擬声語の例をいくつか示しながら、一緒に考えさせる。 ・ICT 端末に送付した食べ物の写真を見て、イメージをふくらまさせる。 ・自分が考えた、お気に入りの擬声語・擬態語+食べものを ICT 端末に入力させる。	思考・判断・表現①（行動観察・ワークシート）【記録に残す評価】



○今日の学習の振り返りをする。	・ ICT 端末で共有した友だちの考えた擬声語・擬態語+食べ物を見て、感想を発表させる。 ・ 考えた擬声語、擬態語をもう一度見ながら、その食べ物のおいしさを表現できているか、振り返らせる。	
------------------------	---	--

ワークシート

ーねん()くみ
なまえ()

()

おいしそうな たべものうたをつくるため、
おとやようすをあらわすことば をかんがえよう。

() りんご



() マシュマロ



() せんべい

() たこやき

() かきごおり

() たんさんすい

() らーめん